

1992年(平成4年)5月14日(木曜日)

地域ニュース

(第三種郵便物認可)

筑波山

第三部 食と農

●11

「やりがいがあります」と田植えに汗を流す小久保貴史さん



目指す武さんは、さらに規模拡大を考えている。その右腕となる貴史さんは今、「一生懸命やれば必ず結果が出る」と農業のおもしろさを実感。「さ

いい給料がいい」がボクの3K」と若者らしい明るさも見える。筑波山の雄姿が間近に迫る水田で、今年の田

18歳の後継者が誕生

国史跡・小田城址(し)の近く、つくば市小田に広がる水田地帯に今春、若い息吹がみなぎった。十八歳の青年後継者の誕生。昔から米どころとして知られる地域だが、若者が働く姿は久しく見られなかった。小久保武さん(四四)はここで水田二千畝に小麦、ビール麦四十畝を耕作する。経営規模の拡大によ

金の卵

い、将来への活路を模索。その戦列に長男、貴史さん(一八)が加わったのだ。「サラリーマンになろうかな」。中学生のころは、そんな漠然とした気持ちもあったという。だが

との共同生活だった。在学中に大型特殊免許などを取得し、トラクタやコンバインなどの大型農業機械も乗りこなす。「作物と話ができるいようではダメだ」。敵しい心構えもたたき込まれた。この三月、卒業と

同時に実家に戻った時は「即戦力」のたくましさを感じた。大正生まれの清一さんは「これから農業はあこがれの存在になるよ」と言う。有機肥料に「百五十馬力の大型トラクターよりもずっと頼もしい存在だよ」

父、祖父と明るく取り組む

「安全でおいしい米を安定的に生産する農業」を

(第三部おわり)